

Java インターフェイス利用ガイド(2013/02/08)

ディレクトリ/ファイル構成

- Window_X86_32 版

Lib¥

dmcjava.dll

dmc_java¥

apidoc.zip	Java インターフェイス API 仕様のアーカイブ
apptest¥	サンプルソースコード
appcmd.bat	サンプル実行用バッチファイル
dmcjava.jar	Java インターフェース jar
CMDInfo.class	サンプルソースから作られたクラス
Test.class	サンプルソースから作られたメインクラス

- Unix 系プラットフォーム

Lib/

libdmcjava.so.4.2	JNI(Java Native Interface)のファイル
libdmcjava.so.4	libdmcjava.so.4.2 へのシンボリックリンク
libdmcjava.so	libdmcjava.so.4 へのシンボリックリンク

dmc_java/

apidoc.zip	Java インターフェイス API 仕様のアーカイブ
apptest/	サンプルソースコード
appcmd	サンプル実行用シェルスクリプトファイル appcmd64 が入っているプラットフォームもあります
dmcjava.jar	Java インターフェース jar
CMDInfo.class	サンプルソースから作られたクラス
Test.class	サンプルソースから作られたメインクラス

動作環境の設定

TextPorter の環境設定

TextPorter の導入ガイドを参考に TextPorter をインストールしてください。

注：

すでに正常に TextPorter が使用できる状態であれば、不要です。

Java の環境設定

Java をインストールしてください。

注：

すでに正常に Java が使用できる状態であれば、不要です。

1) 各プラットフォーム用 JDK のインストール

各プラットフォーム用 JDK をインストールしてください。JDK 1.4.2 以上を推奨。

注：

JDK 1.4.2(J2SE 1.4.2)は、すでに Sun のサポートが 2008 年 10 月末でなくなっています。そのため、TextPorter 次期バージョンでは、JDK 1.4.2(J2SE 1.4.2)のサポートを中止し、JDK 1.5(J2SE 5.0, Java5)以上に移行します。JDK 1.5 も 2009 年 10 月末には Sun のサポートがなくなるので、できれば JDK 1.6(Java SE 6, Java 6)以上に移行する予定です。ご承知おきください。

2) 環境変数の設定

JDK をインストール後、JAVA_HOME を設定してください。

例

Unix で/usr/java/j2re1.4.2 にインストールした場合(bash の例)

```
export JAVA_HOME = /usr/java/j2re1.4.2
```

Windows で c:\jdk1.4.2 にインストールした場合

```
set JAVA_HOME=c:\jdk1.4.2
```

PATH に JAVA_HOME ディレクトリの bin(例/usr/java/j2re1.4.2/bin や c:\jdk1.4.2\bin)を追加してください。

テスト実行手順

TextPorter と Java の環境設定を行った上で、dmc_java ディレクトリで、次のコマンドライン

```
java -cp dmcjava.jar;. Test 抽出元ファイル、出力先、オプション
```

などを入力して、テキストが抽出できれば、テスト成功です。

(app_* の使用方法とほぼ同じです。TextPorter のマニュアル「利用ガイド」をご参照ください)

例 Windows

```
java -cp dmcjava.jar;. Test d:\testdata\* -t d:\outtex - p DMC_GETTEXT_OPT_OLE
```

例 Unix

```
java -cp dmcjava.jar:. Test ~/testdata/* -t ~/outtex - p DMC_GETTEXT_OPT_OLE
```

64bit の TextPorter を使う場合は、後述の「Java コマンドのオプション」を参照してください。

dmcjava.jar の扱い

dmcjava.dll や libdmcjava*.so.*については、TextPorter のインストールで、他の TextPorter の dll や so と同じところにあり、それらが正しくロードされるようになっているはずですから、省略し、dmcjava.jar の扱いについてのみ、述べます。

dmcjava.jar は、Java 仮想マシン(JVM)が jar をロードできるディレクトリであれば、どこにコピーしてもかまいません。ただし、そのディレクトリを JAR_DIR とすると、JAR_DIR\dmcjava.jar や JAR_DIR/dmcjava.jar を、Java のやり方に従って、環境変数 CLASSPATH や Java の起動オプションで指定してください。

例

Java の起動オプションで指定する例。

JAR_DIR は、お客様の環境に合わせて変更してください。

Windows の例

```
java -cp JAR_DIR\dmcjava.jar;その他の jar Java のプログラム
```

Unix の例

```
java -cp JAR_DIR/dmcjava.jar:その他の jar Java のプログラム
```

Java コマンドのオプション

64bit の指定

64bit の TextPorter を使う場合は、java コマンドに `-d64` オプションを付けてください。

なお、古い Java やプラットフォームによっては、64bit の Java がない場合や `-d64` オプションがない場合があります。その場合は、64bit の動作はできません。

スタック領域の指定

複数のスレッドを使ったり、アーカイブファイル、OLE に埋め込んだファイル、PDF やメールに添付したファイルの抽出時には、スタック領域が足りなくなり、クラッシュすることがあります。

java コマンドの `-Xss` オプションで十分なスタックサイズを指定してください。

詳しい java コマンドのオプションの解説は、

<http://docs.oracle.com/javase/7/docs/technotes/tools/solaris/java.html>

や

<http://docs.oracle.com/javase/7/docs/technotes/tools/windows/java.html>

を参照してください。

インターフェイス仕様

dmc_java¥apidoc.zip を展開してご覧下さい。